

森のドライブ

龍郷町立龍瀬小学校 二年 原田 ゆうき

「ああ、いい天気だ。今日こそ、車をかんせいさせるぞ。」

ぼくは車を作るために、家のうらに向かいました。ぼくは、そこで車を作っています。もうすぐかんせい・・のはずでした。

「わああ、ぼくの車がない。」

家のうらにまわってみると、車のざいりようがありません。車のボディがあるだけです。

ぼくは、森にさがしに行くことにしました。

森に入るとすぐ、アマミノクロウサギがエンジンをもっていました。

「そのエンジンをかえして。」

ぼくが言うと、アマミノクロウサギは、

「このエンジンは、ぼくのドリルマシンにぴったりだ。

あなほりきょうそうで、ぼくにかつたらかえすよ。」

と、じしんたっぷりに言いました。アマミノクロウサギは、あなをほって子どもをそだてます。あなほりは、とくい中のとくい。でも、ぼくだってあなほりにはじしんがあります。なぜかという、毎日ほただけであなをほって、やさいをうえているからです。

「よいい、どん。」

あなほりきょうそうがはじまりました。アマミノクロウサギは前足と口をつかって、きょうにあなをほっていきます。ぼくもまけないように、手をいっしょうけんめいうごかしました。ぼく三十メートル、アマミノクロウサギ二十九メートル。ぼくがかちました。

「このエンジンは、きみにかえすよ。」

アマミノクロウサギは、エンジンをかえしてくれました。

森のおくにすすんでいくと、大きなハブがハンドルに体をまきつけていました。

「そのハンドルをかえして。」

ぼくが言うと、ハブは、

「このハンドルは、おれのすみかにぴったりだ。おれとしんちょうくらべをしてかつたら、かえしてやるよ。」

と、

するどいきばをひからせて言いました。ハブは、ぼくの足もとにピンとのびました。そして、

「ああ、おれのまけだ。このハンドルは、きみにかえすよ。」

と、あっさりハンドルをかえしてくれました。どうしてぼくのかちなのか、わかりません。下を見てみると、なあんだ、ハブはぼくのかげとしんちょうくらべをし

